

お茶の水小学校の発掘調査について

1 調査の目的及び期待される成果

本件調査の目的は、校舎建替工事によって損壊する遺跡の記録保存。記録保存を行ったのちは、原則として当該地での開発を進めることができる。

当該地の試掘調査では、近世の屋敷跡とみられる礎石列や、池跡、上下水とみられる溝状遺構などが発見されているため、近世における土地利用の成果が明らかになるものと期待される。当該地は、近世前期には旗本屋敷、後期には備中岡田藩伊東家の屋敷跡であった。(備中岡田は、現在の岡山県倉敷市真備町岡田)

2 調査規模及び工程

・対象面積

約 1,183 m² (左図、網掛け部分)

・対象遺跡

神田猿楽町一丁目遺跡

種別：屋敷跡 時代：近世

・調査規模

生活面数：3面

推定遺構数：800基

・工程

現地発掘調査

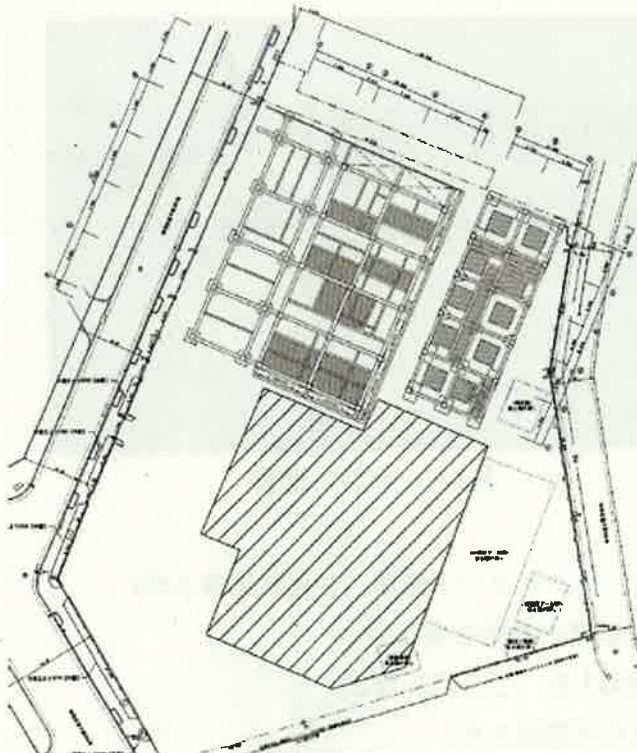
令和2年 6月1日～

11月30日 (6か月)

整理調査・報告書作成期間

令和2年12月1日～

令和4年5月31日 (18か月)



調査区設定図



安政2年(1855)と現代の重ね図

(『江戸東京重ね図』)



①御府内沿革図書（1673年以前）



②御府内沿革図書（1808年）



③御府内沿革図書（1861年）

※土地所有者の変遷

当該地は、近世の始めから19世紀初頭まで、蔵米取300俵（のちに400俵に加増）の旗本・万年氏、19世紀初頭以降幕末までは1万300石取の備中岡田藩伊東氏がそれぞれ屋敷を構えていた。

《御府内沿革図書に記された拝領者》

- ①万年傳兵衛
- ②万年三郎次郎
- ③伊東若狭守中屋敷



トレンチ①・礎石列



トレンチ③・池跡

《試掘調査で確認された生活面の所見》

近代以後の層・・・煉瓦基礎建物（2代目錦華小か）、コンクリート躯体（3代目錦華小か）

第1面・・・建物礎石列、土坑など<19世紀前葉の遺物を含む>

第2面・・・杭列、溝状遺構（上下水か）、廃棄土坑（ごみ坑）など

第3面（地山）・・・池跡（第1面の時期まで使用された可能性あり）